

- 基準協会の動き
- 論説1 認証評価への取組みで得たもの
- 論説2 ALOを経験して
- 協会から 自分のことは、自分が一番よく知らない
- 日誌 令和2年1月～令和2年12月

基準協会の動き

認証評価

●令和2年度短期大学認証評価委員会分科会が開催されました

令和2年度の認証評価につきましては、160名の評価員が40の評価チームに分かれ、担当評価校の書面調査(8月～9月)、新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえて、訪問調査に代わるオンライン会議(Zoom)(9月下旬～10月中旬)を実施し、各評価チームより担当評価校についてまとめた基準別評価票が11月5日(木)を最終締め切りとし提出されました。

短期大学認証評価委員会(以下、「認証評価委員会」)(原田博史委員長)では、11月17日(火)から19日(木)の3日間、認証評価委員会分科会Ⅰをオンライン会議により開催しました。17日(火)はまず、全体会議において基準別評価票を基に機関別評価原案の作成等についての打ち合わせを行いました。さらに18日(水)と19日(木)は、8分科会に分かれて、令和2年度評価に当たったチーム責任者と当該評価校の概要及び基準別評価についての意見交換を行った後、意見交換の情報を踏まえて機関別評価原案の作成に取りかかりました。

さらに、12月2日(水)に認証評価委員会分科会Ⅱをオンライン会議により開催し、問題点等の協議を行い、機関別評価原案を確定しました。

●機関別評価案を通知(内示)しました

認証評価委員会では、12月14日(月)に令和2年度分科会委員も加わった認証評価委員会拡大会議をオンライン会議により開催し、分科会で作成された機関別評価原案を基に機関別評価案の協議を行いました。

さらに、12月17日(木)オンライン会議により開催された理事会において、機関別評価案が報告・承認され、18日(金)に令和2年度評価校へ通知(内示)しました。評価校は、内示された機関別評価案の記載内容の判定に異議等がある場合は、令和3年1月18日(月)までに異議の申立て等を行う機会を設けています。

調査研究

●短期大学生調査(Tandaiseichosa)を実施しています

短期大学生調査(Tandaiseichosa)は、6月に会員短期大学へ参加を募ったところ、7月末までに、67校20,302人分の参加申し込みがありました。その後、12月上旬まで、各短期大学での調査を実施、年明け2月中旬には参加校へ集計結果の提供、3月には全体集計結果公表等のスケジュールの下に調査を進めています。

各参加校には、参加校自身のローデータや集

計結果を提供するほか、本協会ウェブサイトを通じて、参加校全体の集計結果及び分野別集計結果も提供しています。

参加校は、全体結果及び同一分野の結果との比較分析を通して自校の強み・弱み等を把握することができるなど、自己点検・評価活動に活用できる調査を行っています。

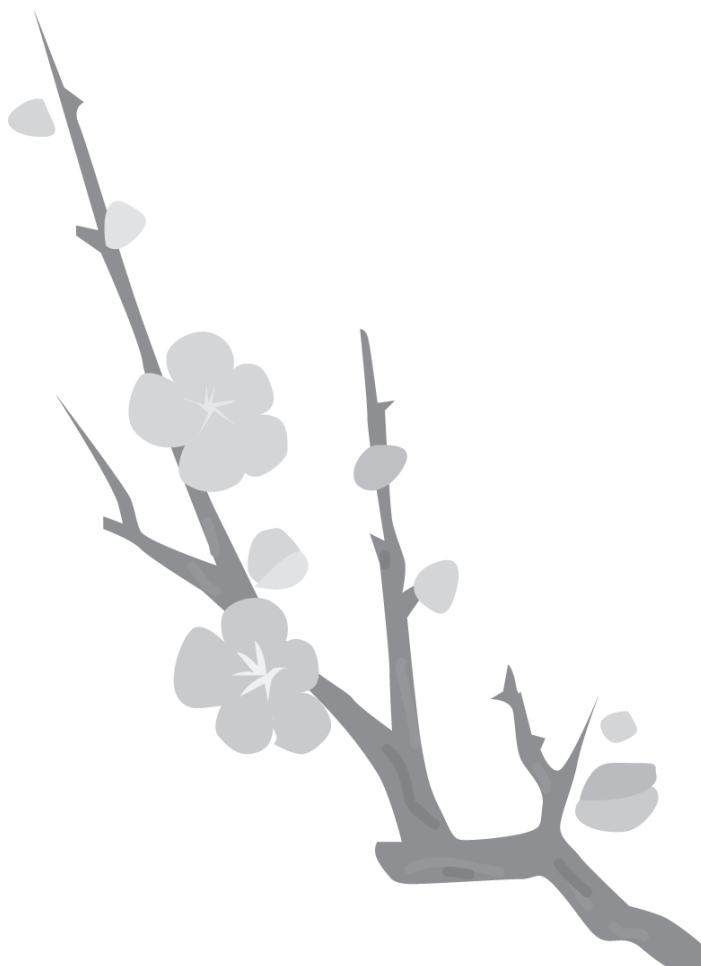
●短期大学卒業生調査の研究開発を行っています

調査研究委員会では、各短期大学の自己点検・評価活動や内部質保証に資するため、短期大学で学ぶ意義や、在学時の教育プログラムと卒業後の職業との関連性などを確認できるような「卒業生調査」ツールの開発と提供を目指して準備を進めており、7～8月に会員短期大学

45校の協力を得て調査を実施しました。調査の費用については、本調査への参加費（オンラインアンケートツールの使用料、調査結果の集計費及び参加校への調査結果等の郵送料等）は協会負担とし、各参加校から調査対象の卒業生への郵送料等は短期大学負担としました。

結果、本調査では、45校 9,560名の卒業生を対象に調査を実施することができ、1,964名から回答を得ました。調査終了後、9月下旬に短期大学ごとのローデータの提供、1月下旬に集計結果の提供、3月下旬には全体集計結果の公表等のスケジュールの下に調査を進めています。

今回の調査の結果等を踏まえて調査内容等の改善を図り、令和3年度も全会員校に参加を募って実施する予定です。





論説 1

認証評価への取組みで得たもの

玉 島 健 二 (長崎女子短期大学 学長)
(令和元年度認証評価 評価校)

はじめに

本学の母体である学校法人鶴鳴学園の始まりは、明治 29 年 10 月に設立された「長崎女子学院」に遡ります。そして、本学は昭和 41 年 4 月、「鶴鳴女子短期大学」としてスタートしました。当時、我が国は高度経済成長の真っ只中の時期でした。18 歳人口は増え続け、大学進学率も上昇する中、長崎県内には十分な高等教育機関が整備されていなかったために、向学心に燃えた前途有為な女子生徒が進学を断念せざるを得ない状況を憂えた学園関係者が立ち上がり、「高等学校教育の上に、更に 2 年間にわたる専門職業教育を施し、健全な民主主義社会の発展のために有為なる女性を育成する」ことを基本理念として本学は設立されました。その後、昭和 44 年に現校名である「長崎女子短期大学」と改称しましたが、設立以来 50 余年にわたり、建学の精神と教育理念に基づいて定められた、「尽心・創造・実践」の教育目標（学訓）のもと、「品性を備え、実行力に富む有為な女性の育成」、「地域と共に歩み、地域の発展に貢献する短期大学」を目指し、学生の教育・指導に当たっております。

さて、認証評価（第三者評価）については、本学は 1 回目を平成 17 年度、2 回目を平成 24 年度に受け、それぞれ「適格」の認定を受けております。そして、3 回目を令和元年度に受け、短期大学基準協会より令和 2 年 3 月 17 日付けで「適格」の認定を受けることができました。

認証評価までの準備

私は、公立高等学校を退職後、平成 27 年度に本学に入職し、1 年後の平成 28 年度から学長職を拝命いたしました。短期大学のことを十分に理解できていない私が学長となり、認証評価に関わること自体が今から考えれば無謀であったと言わざるを得ません。しかし、平成 31 年度（令和元年度）には 3 回目の評価を受けることは決まっていたので、それに向かって準備するしかありませんでした。幸いに自己点検評価室長（ALO 兼任）が評価を受ける年度までの計画や方針をしっかりと立てて学内をリードしてくれたことで、スムーズに準備ができました。

認証評価を受ける 3 年前の平成 28 年度にまず取り組んだことは、学位授与の方針をはじめとする三つの方針を含む「教育システム総覧」の見直し及び再構築でした。「教育システム総覧」とは、建学の精神、教育理念、教育目標を踏まえて策定された三つの方針及び学習成果等の一覧表のことで、参考にしたのは、直前に中央教育審議会大学分科会大学教育部会から出されたガイドラインでした。議論の詳細は割愛しますが、大きく変更したのは、学習成果の到達目標を 9 項目から 6 項目にまとめたこと及び入学者選抜の評価項目を 6 項目に対応させたことです。また、その年度から 4 名の外部評価委員を初めて委嘱し、外部評価委員を招いての自己点検・評価委員会を開催いたしました。認証評価を受ける 2 年前から 1 年前にかけては、

「三つの方針とPDCAサイクルによる内部質保証の成果検証」、「学習成果の評価指針の検証」等をテーマに、自己点検評価委員会やFD・SD研修会で協議を積み上げていきました。同時に、自己点検・評価に係る根拠資料の作成にも着手していきました。また、自己点検・評価報告書提出期限の約1年前からは、自己点検評価委員会委員を中心に報告書の執筆分担を行い、最終稿（第七稿）の提出締切を当該年度4月中旬とし、その間、私とALO兼任の自己点検評価室長が定期的に加筆・修正を繰り返しました。さらに、当該年度の8月には、「訪問調査への対応」をテーマにFD・SD研修会を開催し、提出済みの自己点検・評価報告書や根拠資料及び学内で作成した想定問答集をもとに、質疑応答を行うとともに、回答内容について相互に指摘し合うなど、全教職員で訪問調査への準備を行いました。特に、このFD・SD研修会は、自己点検・評価を全教職員が一体となって行う絶好の機会になったと思います。

自己点検・評価報告書の作成

自己点検・評価報告書の作成に当たっては、まず、「評価員が理解しやすい報告書とする」ということに留意しました。基準Ⅰ～Ⅳの区分ごとの評価の観点を踏まえた記述は勿論のことですが、「学外の第三者が理解できる、読みやすい報告書にすること」を念頭において作成しました。私自身、これまで3回評価員を経験しましたが、その経験が本学の自己点検・評価報告書作成に生かされたと思います。学内の関係者は理解できるが、学外の第三者（特に評価員）には難解な報告書は避けるべきだと思ったからです。そのためには、学内で使用している固有名詞を含む用語等は極力避けるとともに、区分ごとにポイントを押さえた記述を心掛けることが必要だと思います。次に、認証評価と呼ばれるようになった第3評価期間から、「内部

質保証ルーブリック」を用いた評価が導入されましたが、本学ではルーブリックに示された「建学の精神を確立している」など4項目に関連する区分の記述に際して、それぞれレベルⅠ～Ⅳのどの段階にあるかを敢えて記載し、評価員の評価の参考にさせていただくようにしました。

認証評価への取組みを通じて

高等教育の質保証の重要性が叫ばれて久しいわけですが、認証評価はその代表的な取組みだと思います。そして、そのための普段の自己点検・評価活動こそが、質保証のポイントではないでしょうか。認証評価に向けての作業は、何年も前から根拠資料を作成したり、自己点検評価委員会をはじめとする学内会議で議論を積み重ねたりするなど、膨大な時間とエネルギーを要します。しかし、そのことにより、見えてくるものがあります。それは簡単に言えば、自学の強みであり、弱み（課題）です。「強みをどう伸ばし、弱み（課題）をどのように改善していくのか」、このことについて学内で認識を共有し、協議を進めることができたのは、認証評価に向けての取組みの成果だと思います。本学は、令和元年9月上旬に訪問調査を受けましたが、評価員との質疑応答や評価員からの提言及びこれまでの作業を通して、改善すべき本学の課題がある程度明らかになりました。そこで、10月に「特色化推進プロジェクト会議」を立ち上げ、「学習内容・教育課程」、「学習支援」、「学生支援」など、11項目にわたって「すぐに取り組めること」、「学科等での協議が必要」、「時間をかけた検討が必要」の3つに分けて協議し、今年度5月までにある一定の成果・結果を残すことができました。勿論、全ての課題が改善できたわけではありませので、プロジェクト会議での協議は、現在も継続しています。

機関別評価結果を受けて

令和2年3月に機関別評価結果をいただきましたが、その前の令和元年12月に機関別評価結果（案）の提示がありました。私どもの予想に反して「向上・充実のための課題」での指摘事項は、わずかに1項目のみでしたが、それで安心してはいけないと思いました。

本学には、学科・コースの特色化・魅力化の推進、学生募集の強化（定員充足率の向上）をはじめ、多くの克服すべき課題があり、その課題克服に向けて日々取り組んでいる状況です。

おわりに

今回の認証評価における訪問調査では、評価チーム責任者の先生から「資料等が非常に丁寧にまとまっており、見やすかった。疑問点も全て確認できた。良い環境、雰囲気の中で運営について努力されていることを感じる事ができた。」という講評をいただきました。長期間に

わたり準備をしてきたことが報われたと感じました。しかし、これで終わりではありません。4回目の認証評価に向けた取組みを進めていかなければなりません。

最後になりましたが、学務ご多用の中、遠路はるばる訪問調査に長崎までお越しいただいた4名の評価員の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後とも日常の自己点検・評価活動に取り組んで参りたいと思います。



長崎女子短期大学の外観

論説2

ALOを経験して

吉 村

齊（高知学園短期大学 教務部長・教授）

はじめに

高知学園短期大学は、令和元年度に3度目の認証評価を受け、適格の判定をいただきました。私自身は、第2評価期間に続いてのALO担当でした。本学では、各学科や事務局各課など部局における自己点検・評価活動から始まり、自己点検評価委員会で報告書案を検討します。その後、作業連絡会での点検や編集を経て、管

理職者で構成される自己点検評価検討会議に諮ることとしています。ここで決定した報告書案が理事長に承認されれば、ようやく公表されます。このように、本学では作成から公表に至るまでに複数の段階を経る体制となっています。

自己点検・評価の活動と報告書作成

2度目の認証評価を受けた後、一部では報告

書の提出が自己点検・評価の目的になっている気配を感じました。例えば、内容を検証するよりも、前年度の内容を少し加筆修正するレベルで終わっている様子です。これでは、現状維持が目的となり、新たな課題を発見する視点が失われます。まさにマンネリ化の兆候でした。

そこで、循環的な自己点検・評価を推進するため、評価校マニュアルに示されている『当該区分に係る自己点検・評価のための観点（以下、「観点」と表記。）』を改めて認識することを重視しました。具体的には、各部局における自己点検・評価活動で役割を細かく分担し、「観点」に基づいて全教職員の目で行き届くものです。きわめて常識的なことですが、この習慣づくりが馴れを打破するには不可欠と感じたからです。それは、各部局で各区分のスペシャリストを育てることも意味しています。特に、特定の担当者のみが主導するのではなく、全教職員が関わりながら「観点」の根拠を各人が追求することで、自分だけでなく他者の立場も理解し、学内のピア・レビューが深まることを目指しました。ここを徹底できなければ、各人が勝手な解釈をしたり、都合のよい部分を持ち出したりしてガバナンスが機能しなくなることが危惧されます。幸い、「観点」の重要性を理解し、確認しあう雰囲気が出てきた点は成果の一つと思われる。

令和元年度の認証評価に向けては、特に学習成果を軸に三つの方針との整合性をいつでも点検することができるよう、大学全体レベルと学位プログラムレベルで対照表（本学では「ポリシー・マップ」と命名。）を作成しました。対照表ができると、入学前、入学後、卒業までの各方針がどのように関連し、そしてどのような学習成果を身につけることが段階的に求められるのかをイメージすることが容易になりました。この取り組みが、後に内部質保証を果たすために何を行うことが必要かを積極的に議論する

分岐点になったと思います。

本学は4学科（うち1学科は2専攻課程）を有し、短期大学の学科数としては比較的多い方かと思います。そのため、自己点検・評価報告書作成で苦労したことはページ数の上限以内に収めることでした。自己点検・評価活動が積極的になると、今度はアピールしたいことが多くなり、上限を超過することとなりました。そのため、作業連絡会では、自己点検評価委員会で作成された案の内容を「観点」と照らし合わせながら、内容を絞って編集する日々が続きました。1回の作業連絡会で約3時間を要し、それを集中的に3～4回、多い年度は5回以上行いました。これらの過程を反復したおかげで、「観点」が法令や通知等に基づいていることを深く理解し、大学運営を進める上で遵守すべき基本的かつ重要な指標であることを、多くの教職員が認識するようになりました。

訪問調査

訪問調査時、本学では校舎の改修工事が行われていました。そのため、施設見学や交通経路が制約され、評価員の先生方には多大なご迷惑をおかけしたと思います。それでも、評価員の皆様による円滑な進行によって、大変実りのある会となりました。

個人的に印象に残った質問として、シラバスで卒業認定・学位授与の方針との関連に関する記述が不足していたことが挙げられます。本学では、シラバス作成要領でこの記述を求めています。また、作成されたシラバス案を教務委員会でチェックし、必要に応じて加筆修正を依頼しています。それでも、多くの科目で残された課題でした。この状況で、評価員より質問をいただいたことは、その重大さを本学教職員に気付かせる上で大きな影響を与えたと思います。そのためか、令和二年度のシラバス作成では、卒業認定・学位授与の方針との関連を自ら丁寧

に記述する教員が増加しました。これぞ、ピア・レビューによる認証評価の理念であると確信した次第です。

第3評価期間より、学生へのインタビューも行われるようになりました。本学では、分野が多岐にわたり、スケジュールも学科で異なります。こうした背景より、インタビューに参加できる学生は、学生生活の様子がある程度わかるだけでなく、訪問調査時に学外実習へ出ていない者となります。そのため、参加する学生の具体的な条件は設けず、各学科で参加できる学生を募ってもらいました。

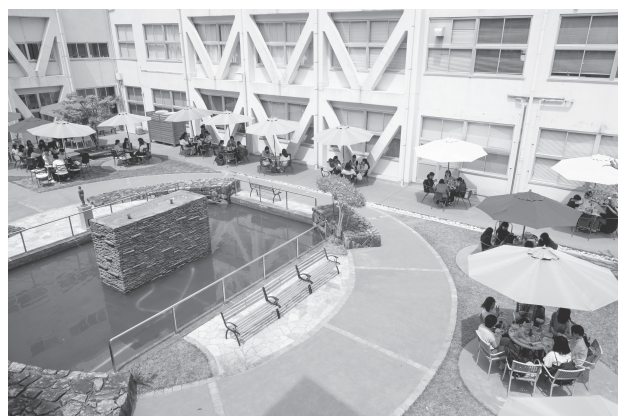
当初の予定では、評価員の先生方が学生の待つ部屋へ入室して開始することとしていました。しかし、学生は、訪問して下さった評価員のもとへ自ら出向くことを提案しました。自分たちの置かれた状況で何が相応しいかを考え、一つの回答を導く姿は、彼／彼女らが成長した証です。その後、評価員の先生方より、学生からの要望も教えていただき、通常とは異なる形で学生の声を聴くことができた点に新鮮さを味わいました。

おわりに

訪問調査を終えた後、その内容を短期大学全体レベル、学位プログラムレベル、そして授業科目レベルに基づいて整理し、関連する会議や部局等で取り組んでいます。自己点検・評価活動は、決して認証評価のためでも自己点検・評価報告書提出のためでもなく、質が保証された短期大学として発展するために行うものです。

そして、この活動を推進するために何をすればよいのかを明示したものが「観点」であると思います。今後も、「観点」に挙げられた項目の背景や理由を学び続けながら、本学としての独自性を確立し、地域に貢献できる専門的職業人を輩出するよう取り組んでいきます。

最後に、ご多忙の中、本学にお越しくくださった評価員の先生方と、適切な助言を下さった大学・短期大学基準協会の皆様に心より感謝いたします。



高知学園短期大学のキャンパス中庭





協会から

自分のことは、自分が一番よく知らない

一般財団法人大学・短期大学基準協会 理事

星美学園短期大学 学長

阿部 健一

「『経験』と題するノートを作りなさい。そこに自分が経験してきた問題点や失敗を記録するのです」

これは、19世紀の産業革命下、都市に流入し過酷な生活を送っていた少年たちのために生涯を捧げたイタリア人カトリック司祭、ヨハネ・ボスコ（少年たちは、親しみを込めて“ドン・ボスコ”と呼びました）の言葉です。この言葉を今風に言えば、「常に“自己点検”しなさい」ということになるでしょう。

さらに、ドン・ボスコは、少年たちに、次ぎのようにも語っています。

「欠点を指摘し、また、直してくれる友人がいなければ、謝礼を払ってでも、この貴重なことを誰かにしてもらいなさい」

この言葉も、今風に言えば「“第三者（認証評価）が不可欠です」ということになるでしょう。

ドン・ボスコは、「…謝礼を払ってでも、この貴重なことを誰かにしてもらいなさい」と言っています。「自己点検・評価」だけでは、だめなのでしょうか。

「自己点検」には、一つには、評価される対象と評価する主体が同一であるということ、すなわち、自分について語る主体が、他ならぬ自分であるという点に限界があります。そ

して、もう一つ、自分を点検・評価する営みの中に、自分に対する期待や願望が不可避免に入り込んでくるという問題があります。自分の顔や背中が見えないように、実は、「自分のことは、自分が一番よく知らない」というのが、この世の真実ではないかと思います。

自分の真の姿を知るためには、自分を映してくれる鏡がどうしても必要です。その鏡の一つが、第三者による点検・評価ということになるでしょう。第三者による点検・評価というシステムがなければ、自分で自分を知ることに限界のある私たちは、「裸の王様」のように、自分の真実の姿を見失ってしまうでしょう。

ドン・ボスコは、少年たちに「自分に忠告してくれる友を持ちなさい」と語りましたが、自分に忠告してくれる友も、また同じように、自分に忠告してくれる友を必要としているでしょう。幸い、私たちは、諸先輩方のご尽力により、ピア・レビューというすばらしいシステムの中で、「忠告してくれる友」を得、また「忠告する友」となることができます。「忠告してくれる友」に感謝しつつ、また「忠告する友」として研鑽を積みつつ、お互いの発展のために、さらに寄与できるよう進んでいくことができたらと願っています。

日 誌

令和元年度（令和2年1月～令和2年3月）

◇理事会

第38回令和2年2月21日（金）

議事

1. 令和元年度認証評価に係る機関別評価案に対する異議申立て等について
2. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善報告等について
3. 令和元年度認証評価に係る機関別評価結果報告書について
4. 東京福祉大学短期大学部について
5. 各種委員会の次期委員候補者及び委員長について
6. 令和2年度会議日程について
7. 大学認証評価機関申請書添付資料について

第39回令和2年3月10日（火）

議事

1. 令和元年度認証評価に係る機関別評価結果の決定について
2. 東京福祉大学短期大学部の取扱いについて
3. 短期大学認証評価要綱の改定について
4. 短期大学評価基準の改定について
5. 大学認証評価機関申請書添付資料について
6. 認証評価委員会委員について
7. 令和2年度事業計画について
8. 令和2年度収支予算について

◇認証評価委員会

第142回 令和2年1月30日（木）

議事

1. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善報告について
2. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善計画について
3. 令和元年度認証評価 機関別評価案（内示）に対する意見申立てについて
4. 令和元年度認証評価結果報告書（説明部分）について
5. 令和2年度認証評価 評価員の追加委嘱等について
6. 令和2年度会議等予定について

第143回 令和2年2月20日（木）

議事

1. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善報告について
2. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）について
3. 令和元年度認証評価結果の通知について
4. 令和元年度認証評価 評価校アンケートについて
5. 東京福祉大学短期大学部について
6. 大学認証評価について

委員会委員意見交換 令和2年3月12日（木）

意見交換内容

1. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善報告について
2. 東京福祉大学短期大学部について
3. 令和元年度認証評価結果の公表について
4. 令和元年度認証評価の振り返りについて
5. 短期大学認証評価要綱案等について
6. 短期大学認証評価要綱案等についてよくある質問（FAQ）について
7. 認証評価委員会委員について
8. 令和元年度基準別評価票に寄せられた評価チームの意見等について
9. 令和元年度評価員研修会アンケート結果について
10. 第3評価期間認証評価に関する ALO 対象説明会 アンケートについて

◇認証評価委員会小委員会

第137回 令和2年1月30日（木）

議事

1. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善報告について
2. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善計画について
3. 令和元年度認証評価 機関別評価案（内示）に対する意見申立てについて
4. 令和元年度認証評価結果報告書（説明部分）について
5. 令和2年度認証評価 評価員の追加委嘱等について
6. 令和2年度会議等予定について

第138回 令和2年2月20日（木）

議事

1. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善報告について
2. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）について
3. 令和元年度認証評価結果の通知について
4. 令和元年度認証評価 評価校アンケートについて
5. 東京福祉大学短期大学部について
6. 大学認証評価について

第 139 回 令和 2 年 3 月 12 日（木） 議事

1. 令和元年度認証評価 機関別評価案（条件付き A）の短期大学の改善報告について
2. 東京福祉大学短期大学部について
3. 令和元年度認証評価結果の公表について
4. 令和元年度認証評価の振り返りについて
5. 短期大学認証評価要綱案等について
6. 短期大学認証評価要綱案等についてよくある質問（FAQ）について
7. 認証評価委員会委員について
8. 令和元年度基準別評価票に寄せられた評価チームの意見等について
9. 令和元年度評価員研修会アンケート結果について
10. 第 3 評価期間認証評価に関する ALO 対象説明会 アンケートについて

◇調査研究委員会

第 40 回 令和 2 年 2 月 17 日（月） 議事

1. 短期大学卒業生調査の研究開発について
2. 令和 2 年度調査研究委員会事業計画について

◇広報委員会

第 56 回 令和 2 年 1 月 17 日（金） 議事

1. NEWS LETTER 第 8 6 号発行について
2. NEWS LETTER 第 8 7 号編集について
3. 令和 2 年度広報委員会開催日程（案）について

令和 2 年度（令和 2 年 4 月～令和 2 年 12 月）

◇理事会

臨時理事会

令和 2 年 4 月 14 日（火）書面審議 議事

1. 各種委員会規程の一部改正について

第 40 回令和 2 年 6 月 3 日（木）書面審議 議事

1. 評議員会の招集について
2. 役員候補者の推薦について
3. 東京福祉大学短期大学部の機関別評価結果の決定について
4. 短期大学認証評価要綱等について
5. 令和 3 年度認証評価実施要領について
6. 令和元年度事業報告について
7. 令和元年度決算報告書について
8. 諸規程等の一部改正について
9. 大学認証評価委員会委員の補充について
10. 入会希望大学及び短期大学の承認について

臨時理事会

令和 2 年 6 月 22 日（月）書面審議 議事

1. 代表理事の選定について
2. 東京福祉大学短期大学部の令和元年度機関別評価結果について
3. 大学認証評価委員会委員長について
4. 入会希望大学の承認について

第 41 回令和 2 年 9 月 15 日（火）書面審議 議事

1. 評議員候補者の推薦について
2. 臨時評議員会の招集について
3. 令和 3 年度認証評価評価校の決定について
4. 令和 3 年度認証評価の実施に伴う評価員について
5. 在宅勤務に関する規程の制定について
6. 入会希望大学の承認について

第 42 回令和 2 年 12 月 19 日（木） オンライン会議

議事

1. 令和 2 年度認証評価機関別評価案の内示について
2. 認証評価審査委員会規程（平成 17 年 4 月 14 日制定）について
3. 認証評価審査委員会委員長について

◇評議員会

第 9 回令和 2 年 6 月 21 日（金）書面審議 議事

1. 評議員の選任について
2. 理事・監事の選任について
3. 令和元年度事業報告について
4. 令和元年度決算報告書について

臨時評議員会令和2年9月29日（火）**書面審議****議事**

1. 評議員の選任について

◇短期大学認証評価委員会**第144回 令和2年4月16日（木）****議事**

1. 令和2年度認証評価実施要領の制定について
2. 令和2年度認証評価の実施通知について
3. 基準別評価の考え方の改定について
4. 評価員マニュアルの改定について
5. 令和2年度認証評価委員会分科会日程等について

第145回令和2年6月18日（木）**オンライン会議****議事**

1. 東京福祉大学短期大学部の令和元年度機関別評価結果について
2. 令和2年度評価チームに係る評価の実施等について
3. 令和2年度認証評価 評価チームの編成について
4. 令和2年度認証評価評価員研修について
5. 令和3年度認証評価 ALO 対象説明会について
6. 評価校マニュアルの改定について

第146回令和2年7月16日（木）**オンライン会議****議事**

1. オンライン会議等による調査（訪問調査の代替案）について
2. 令和2年度短期大学認証評価委員会分科会について

分科会全体会議 令和2年11月17日（火）**オンライン会議****議事**

1. 令和2年度認証評価について
2. 短期大学認証評価委員会分科会の進行等について
3. 機関別評価原案の作成等について
4. 財務に関する評価について

分科会全体会議 令和2年12月2日（水）**オンライン会議****議事**

1. 分科会Ⅰにおける問題点等の審議

2. 分科会検討後の問題点等の審議

拡大会議令和元年12月14日（月）**オンライン会議****議事**

1. 令和2年度分科会Ⅱの概要について
2. 令和2年度 財的資源に関する記述等について
3. 令和2年度認証評価 機関別評価案（内示）等について

◇短期大学認証評価委員会小委員会**第140回令和2年6月18日（木）****オンライン会議****議事**

1. 東京福祉大学短期大学部の令和元年度機関別評価結果について
2. 令和2年度評価チームに係る評価の実施等について
3. 令和2年度認証評価 評価チームの編成について
4. 令和2年度認証評価評価員研修について
5. 令和3年度認証評価 ALO 対象説明会について
6. 評価校マニュアルの改定について

第141回令和2年7月16日（木）**オンライン会議****議事**

1. オンライン会議等による調査（訪問調査の代替案）について
2. 令和2年度短期大学認証評価委員会分科会について

第142回令和2年9月17日（木）中止**第143回令和2年11月11日（水）****オンライン会議****議事**

1. 令和2年度機関別評価のフォーマットについて
2. 分科会Ⅰについて
3. 令和2年度評価校の財務状況について
4. 令和3年度認証評価 自己点検・評価報告書の記述等について

第144回令和2年12月14日（月）**オンライン会議****議事**

1. 令和2年度分科会Ⅱの概要について
2. 令和2年度 財的資源に関する記述等につ

いて

3. 令和2年度認証評価 機関別評価案(内示)等について

◇短期大学認証評価委員会財務部会

第1回 令和2年7月17日(水)

オンライン会議

議事

1. 令和2年度財的資源の評価について
2. 令和2年度評価校の財務状況について
3. チーム責任者への連絡文書案について
4. 令和3年度提出資料「計算書類等の概要(過去3年)」について

第2回 令和2年11月11日(木)

オンライン会議

議事

1. 分科会への連絡文書について
2. 分科会関係資料について
3. 令和2年度「財的資源」の財務部会としての判定について

◇調査研究委員会 書面審議

第41回 令和2年6月2日(火)

議事

1. 2019年度短期大学生調査(Tandaiseichosa) についてのアンケート結果について

2. 2020年度短期大学生調査(Tandaiseichosa) の実施について

◇広報委員会

第57回 令和2年4月23日(木) 書面審議

議事

1. NEWS LETTER 第87号発行について
2. NEWS LETTER 第88号編集について
3. 協会ウェブサイトについて
4. 協会パンフレット改定方針(案)について

第58回 令和2年10月2日(金) 書面審議

議事

1. NEWS LETTER 第88号発行について
2. NEWS LETTER 第89号編集について

◇令和2年度認証評価評価員研修会

令和2年年8月3日(月)

協会ウェブサイトによる動画配信

◇令和3年度短期大学認証評価 ALO 対象説明会

令和2年年9月7日(月)

協会ウェブサイトによる動画配信

編集後記

大学入試共通テスト元年の令和3年は、東京など三大都市圏を含む11都府県に緊急事態宣言が発出される異例の幕開けとなりました。

今回のニューズレターは、ビフォアコロナの令和元年度認証評価と、認証評価の役割についてご寄稿をいただきました。昨年度まで当たり前であった対面での評価活動が、いかに有難いことか、しかし認証評価の目的とその取り組みの大半は、これまでと今年度も変わらないことを改めて感じました。

また、今年度、ウィズコロナの中、関係者の懸命な努力ですすめられている評価活動の新たな足跡を「基準協会の動き」や「日誌」に垣間見ることができます。

紙面からはピアレビューの精神にもとづく会員校と協会の主体的な取り組みの変わらぬ価値が伝わり、アフターコロナの新時代に向けて、教育活動の事業継続計画(BCP)を持つ大切さに気づかされる年のはじまりでした。(HF)

編集・発行

一般財団法人 大学・短期大学基準協会 広報委員会
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-11
第2星光ビル6階

Tel. 03-3261-3594 Fax. 03-3261-8954

E-mail: jimukyoku@jaca.or.jp

URL: //www.jaca.or.jp/